

まちづくり交付金 事後評価シート
小松中央地区

平成21年12月

石川県小松市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	石川県		市町村名	小松市(こまつし)		地区名	小松中央地区(こまつちゅうおうちく)			面積	342ha	
交付期間	平成17年度～平成21年度		事後評価実施時期	平成21年度		交付対象事業費	2,401.5百万円	国費率	0.405			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	事業名 ・道路：横町材木町線、京町地子町線、県道大文字町線、県道芦田町線、県道寺町線、八日市三日月線、高架側道5号線、丸の内向本折線、大和末広線、空港軽海線、幸八幡線 ・公園：芦城公園、九竜橋川横公園 ・高質空間形成施設：九竜橋川(水路)、サイン整備									
		提案事業	・地域創造支援事業：JR高架下公共施設、JR高架下商業施設、八日市公園 ・まちづくり活動推進事業：まちなか魅力アップバス運行事業、観光ボランティアガイド事業									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路：八日市三日月線		削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業	地域創造支援事業：JR高架下商業施設		JR高架下商業施設：補助事業に適さない収益が見込まれたため廃止			指標への影響の可能性はあるが、他の事業を追加実施することで改善が見込まれるため、数値目標は据え置いた。				
	新たに追加した事業	基幹事業										
提案事業	地域創造支援事業：小松駅前時計塔、稚松地区コミュニティパーク 事業活用調査：都市再生整備計画効果検証調査 まちづくり活動推進事業：こまつ歴史文化回廊まちづくり事業		削除/追加の理由			小松駅前時計塔：交通機関利用者へのサービス向上を図るため追加 稚松地区コミュニティパーク：交流人口の増加に寄与するから追加 都市再生整備計画効果検証：今後のまちづくりに活用できるため追加 歴史文化回廊：今後のまちづくりに活用できるため追加						
交付期間の変更	当初変更	平成17年度～平成21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	歴史文化施設の利用者数	千人/年	219 (H11-H15平均)	H16	260	H21	288	○	あり なし	施設周辺のアクセシビリティ向上や移住促進による魅力の向上が見られ、また対象施設の増加(新設)に伴い、利用者数の増加につながった。	平成22年3月
	指標2	主要観光イベントの観光客数	千人/期間	268 (H11-H15平均)	H16	350	H21	170	△	あり なし	各年ごとにイベント会場が変わることや、会場周辺の交通規制、駐車場等の問題、天候(大雨)などの影響もあり観光客数は増加せず、目標値を下回った。しかし、お披露目期間中に開催されるイベント数の増加により、販売の創出につながった。	平成22年5月
	指標3	商店街の歩行者数	千人/日	11 (H11-H15平均)	H16	15	H21	6	×	あり なし	道路整備やサイン整備により地域資源をつなぐ回遊性は向上したが、商店街の歩行者数の増加につながらず、目標値を下回った。	平成22年6月
	指標4	コミュニティバスの利用者数	千人/年	40	H16	120	H21	82	△	あり なし	当初計画では、4系統120千人/年(年間利用者数)を目標とする運行を予定していたが、既存バス路線との調整などにより、2系統での運行となったため、目標値を下回る結果となった。ただし、既存の市内循環バスについては利用者数の増加がみられ、販売の創出につながった。	平成22年3月
	指標5	歩道・歩車共存道路の整備率	%	11	H16	17	H21	17	○	あり なし	歩道・歩車共存道路の整備により、目標の整備率の達成が見込まれ、市民や観光客の安全性、利便性の向上が図られた。	平成22年3月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	小松駅乗車人員数	千人/年	1,478	H16			1,559			連絡立体交差事業に伴う駅周辺整備と高架下公共施設の整備等により、駅乗客数が増加し、販売の創出につながっている。	平成22年6月
	その他の数値指標2	高架下公共施設利用者数	人/年	—	—			19,360			高架下公共施設の整備により、駅周辺の交流人口の増加につながっている。	平成22年4月
	その他の数値指標3											
4) 定性的な効果発現状況	・駅周辺の整備が整ったことで駅の利便性が向上し人々の交流の場となっている。 ・観光ボランティアガイドは利用者には大変喜ばれており、観光客の地域観光資源に対する理解を深めるだけでなく、住民が地域に対する愛着を持ち、自分たちの町のまちづくり活動に関心を持つきっかけとすることができた。 ・美しい景観まちづくりの集いの開催や景観まちづくり協議会が組織されたことにより、身近な自分たちの町の「景観まちづくり」に対する市民意識の向上に寄与できた。 ・事後評価を機として庁内の横断的な検討体制によりまちづくりに対する問題点や改善点について共通意識が得られるなど、まちづくりに対する庁内の意識が高められた。											
5) 実施過程の評価	実施内容		実施状況									今後の対応方針等
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	・こまつファッションタウン推進協議会	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									中心商店街で行われている匠の市の開催を今後も支援していく。
		・観光ボランティアガイド事業	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									観光ボランティアガイドの継続的な育成と、地域の観光資源の掘り起こしによる、新たな観光コースの創出を図る。
		・美しい景観まちづくりの集いの開催	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									今後も良好な景観を通したまちづくり啓発活動を展開していく。
持続的なまちづくり体制の構築	地域の資源を活かした景観まちづくり活動の展開を図るために、景観まちづくり協議会2団体の組織活動を支援した。	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									まちづくり活動の活性化を図るため母体となる「まちづくり協議会」の設立など今後も継続して支援する。	

様式2-2 地区の概要

小松中央地区(石川県小松市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
“住む人、訪れる人が楽しく集い、交流し、優しくふれあうまちづくり”(歴史・文化の風薫る 楽優回廊こまつの創造) ■地区内に点在している小松城の城下町としての歴史的地域資源を繋ぎ観光客数の増加を図る。 ■南加賀地域の中心、小松市の中心市街地として、人々が集散する駅・商店街などの活性化を図る。 ■県下第二位の人口を有する国際観光都市として、交通環境の充実によって市民や観光客の交流を活発化する。	歴史文化施設の利用者数	単位: 千人/年	219(H11-H15平均)	H16	260	H21	288	H21
	主要観光イベントの観光客数	単位: 千人/期間	268(H11-H15平均)	H16	350	H21	170	H21
	商店街の歩行者数	単位: 千人/日	11(H11-H15平均)	H16	15	H21	6	H21
	コミュニティバスの利用者数	単位: 千人/年	40	H16	120	H21	82	H21
	歩道・歩車共存道路の整備率	単位: %	11	H16	17	H21	17	H21

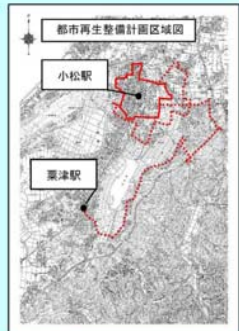
芦城公園



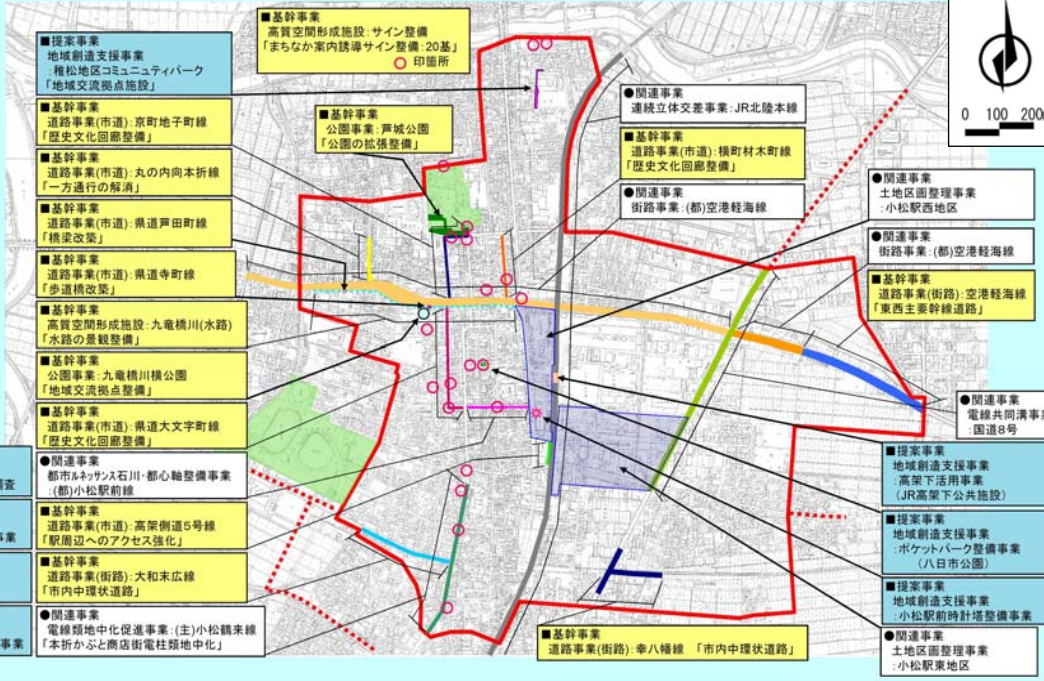
観光ボランティアガイド事業



京町地子町線



凡 例	
[Red outline]	区 域 327ha
[Dotted line]	区域(バス路線) 15ha
合 計	342ha



サイン整備



横町材木町線



高架下活用事業



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 地区内各所に統一した案内サインの整備により、歴史的地域資源のネットワーク化につながったが、点在する寺社や文化施設等をつなぐサインの整備により、サインによる効果の拡大を図る。 観光ボランティアの案内により、ソフト面のサービスによる歴史的地域資源のネットワーク化につながった。 高架下公共施設整備等により、駅周辺で待ち時間を有効に利用できる空間が増加したが、商店街の歩行者増加につながっていないため、継続して商店街の活性化に取り組む。 コミュニティバスの運行により、郊外のバス空白地域や公共施設・病院・大規模小売店舗とJR小松駅を中心に周遊することが可能となったが、バスの利用率向上に向けてルートや時刻表等を見直し、乗車サービスの向上を図る。 歩道・歩車共存道路の整備率が向上し、市民の利便性と安全性が高まったが、点在する寺社など、その他の歴史的地域資源をつなぐ歩道・歩車共存道路の整備を進める。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的地域資源をつなぐ回遊性を高めるために、見て回れる拠点となる施設の整備やサイン整備、点在する寺社及び文化施設をつなぐ歩行ルートの整備を推進する。 観光ボランティアガイドの会員の増加や、新規観光コースの整備により、歴史的文化施設利用者の増加を図る。 駅周辺を今後も快適に利用できる環境を維持する。 商店街の活性化に向け空き店舗や空地などを利用した休息スペースなどの整備を推進する。 JR小松駅を中心とした主要公共施設や観光名所を周遊できる路線を既存バス路線と調整し、新たなルートの検討や定期的な運行の見直しにより、利用者へのサービス向上を図る。 一体的な歩道・歩車共存道路の整備や歩道のある道路を活用した歩行ルートの整備、自転車が行きやすいルートの整備等により、歩行者や自転車にやさしい道路を整備する。 歴史的地域資源である町家などを保存継承していくまちづくり体制を支援する。